

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200852		
法人名	株式会社 ライフサポート		
事業所名	ライフサポート鎌田	ユニット名	Aユニット
所在地	静岡県静岡市駿河区鎌田121番1号		
自己評価作成日	平成24年10月4日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kani=true&JigvosyoCd=2274200852-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成24年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、おひとりおひとりを尊重し、利用者様が望まれる事を大切にしております。入居者様、ご家族様、スタッフをひとつの家族と考えて生活できる様な環境と提供しております。
 自家栽培のお野菜を皆様で美味しく召し上がって頂いております。
 職員構成は30代の管理者を中心に20代から70代まで幅広い年代で、その場面応用の利いた対応が出来ているのも当ホームの自慢が出来るところであると感じております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新しい施設長に代わって2年目、内部体制の変化を模索しながら、より良い介護を目指している。施設長が現場に積極的に出て職員と共に従事することにより、現場の状況把握や職員意見が取り入れやすい環境が作られている。利用者の安全に常に留意し、些細な事故も家族に報告することにより、家族の信頼を得ている。利用者の訴えに耳を傾けながら、無理強いない介護を実践しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ずっとあなたらしく ずっと快適な毎日を 安心と安らぎを創る」を理念として運営しておりますが、理念のある程度の共有は出来ていると言えますが、明確な実践状況を認識するまでには至っておりません。	法人の理念をホームの理念としている。この鎌田では何を大事にしているか、地域でのその人らしい暮らし方の支援等、理念・目標をより明確にし、実践するための意識付けが望まれる。	管理者の思いを浸透させ、職員の方向性を一致させるため、鎌田の理念・目標を職員と共に認識することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入、家主、自治会、ボランティア等との連携に努めております。地域のお祭り、防災訓練等に参加等と地域との関わりを深める様に努めております。具体的な様子については運営推進会議において報告をさせて頂いております。	地域の行事に出来るだけ参加し、フェスタ鎌田でのちんどん屋や児童館の小学生の来訪、ボランティアの積極的な受け入れなど、地元の多様な資源を活かした活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に於いて、認知症の方へのご理解や具体的な実践を報告させて頂いておりますが、限定された方々にしか浸透しておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の開催です。会議には、自治会副会長、地域包括支援センター、家族会、施設職員(管理者・ユニットリーダー)で構成しております。日常生活、行事、アクティビティ、防災、地域交流、事故の発生状況等を報告させて頂き、ご意見を頂く場としております。	昨年の課題としていた推進会議の開催回数3ヵ月から2ヵ月に1度は達成されている。地域の理解と支援を得るための働きかけを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当窓口には、実践・並びに変更事項の報告を行っております。不明な点に関しましては、その都度において連絡をする様にしております。	市担当窓口には直接足を運び、報告や情報交換をしている。介護相談員の受け入れを検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はありません。管理者並びに全スタッフは、身体拘束についての理解に研鑽し、命を守るケアを実践しております。	利用者に対して、自由で無理強いない介護が行われている。回廊式の造りのため目が届かない場所が多い。危険防止のための錠の設置方法を改善していく見込みである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を学ぶ機会を設け、全スタッフが虐待に関しての注意をお互いに払って人権や生命の尊さを守るケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全てのスタッフが権利擁護の知識があるとは言えませんが、制度を学べる機会を設けていきたいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり、契約の締結を行っております。入居前後に於いて、利用者様やご家族様等にご説明をさせて頂き、不安な事柄や不明な点は早期に解決が出来る様に心掛けております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、電話、来訪時等にお話をし下る環境を意識しております。意見や苦情は会議等で報告、話し合いを行い、直ちに運営に反映する様に心掛けております。	来訪時の会話や電話・運営推進会議により意見の聴取を行っている。家族が気軽に行きやすい雰囲気作りをし、実際家族等の訪問回数も多い。施設内での事故も包み隠さず報告することにより信頼を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の職員会議、定期的なカンファレンス、必要があればその都度に話し合いの機会を設け、スタッフの意見や提案を運営に反映出来る様に努力しております。	管理者・職員共に信頼し合っている。職員は改善意見を積極的に提案し、管理者は状況に応じて迅速に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に応じた公正な給与・賞与支給に務めております。業界の全体的な環境は依然として厳しいですが、その様な中でもスタッフの向上心を頼りに運営を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの資質や力量を把握に努めております。また、外部研修の受講機会が少ないので、機会を設けたいと考えております。また、日頃の内部研修やOJTを大切にしていきたいと考えております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内部に於いての人事異動や地域包括ケア会議等への参加を積極的に行い、同業者との交流を行っております。防災上や資質の向上の為に機会を増やしたいと考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様並びにご家族様等と管理者、計画作成担当者が面談、ご要望等を伺い、スタッフはご本人様からお話をお伺いしたりと一緒に過ごす中で、良好な関係が築ける様に心掛けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者並びに全スタッフが初期の段階でご家族様とお話を伺い良好な関係が築けるべく、努力しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の利用者様・ご家族様の現況を見極めて、必要であろうサービスを全スタッフにて検討を行い、早期の対応に心掛けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々人のご状態や性格、持ちうる能力等を把握する様に努めております。日常生活上での利用者様の役割を尊重し、押し付けてしまわぬ様に努力しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会に来所されやすい雰囲気作りに配慮しております。利用者さまとご家族様の関係を大切にしながら利用者様自身が快適な生活を送れる様に支援しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人様と利用者様の馴染みの関係や物品を大切にしております。ご面会は歓迎しております。	面会に来やすい雰囲気作りに配慮し、利用者と家族・友人との関係を大切にしている。電話や手紙の支援をしたり、家族が弁当を持参し利用者と共に食事をすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の独自の生活習慣やお気持ちを尊重し、日常生活やアクティビティ等を行いながら孤立される事が無い様に利用者様同士の良好な関係作りに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、ご相談やご報告があれば、その都度に対応させて頂き、支援できる範囲内に於いて協力させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個人の行動、言葉、表情を共同生活上に於いてご意向を把握しております。また、ご家族様から頂いた情報に関しても重要視し、スタッフ間で共有し、活かしております。	更衣介助など、利用者と一緒に向きあえる時に、さりげなく本人の思いを聞くよう努めている。「お正月にはお酒を飲みたいよ」との希望を把握し、応えるなど一人ひとりの思いを大切にケアを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴に関して、ご家族様にお聞きをしたり、今までの生活でお使いになられていた物品をお持ち頂く等し、スタッフ間の共有に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の有する能力を見極めた上で、出来る事や出来ない事を判断し、職員間で情報を共有して、過剰な介助・押付けの介護にならない様にご自身で出来る事はお願いしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフ、ご本人様、ご家族様、周辺環境を踏まえ検討を重ねながらご本人様に適合した介護計画を作成出来る様に努めていきたいと考えております。	アセスメントとモニタリングの重要性を理解してはいるが、日常の業務に追われ、定期的な介護計画作成が滞りがちである。管理者は迅速な改善を予定している。	アセスメントをもとに介護計画を作成し、全職員がそれに基づいたケアして行く事が大切である。その場しのぎのケアにしないためにも、定期的な介護計画作成の実現を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたケア実践は現状では、及第点とは言えませんが、日々のご様子や気づきをケース記録に反映させスタッフ間の情報共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様のご要望に出来る限り対応させて頂いております。また、管理者を中心とし、スタッフ間の連絡を密に行い、対応に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や活用が現状では、充分に行えておりません。ホームの存在、行動傷害、災害時の協力を深いご理解を頂く必要性がより顕在化しなければならないと考えておりますが、周囲から支援されている事は計り知れない物があります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様やご家族様等のご希望に沿った受診支援を行っております。	1人を除き、ホームの協力医をかかりつけ医としている。月2回の往診日は、職員会議後の時間帯にお願いし、利用者の最新の状況を口頭で伝え、指示を得ている。必要に応じて協力歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は不在の為、協力医や主治医と24時間連絡を取れる体制となっております。状態変化が診られた時には、速やかに電話連絡を行い指示を仰いでおります。また、法人内に看護職員がいる事から必要に応じて協力を仰いでおります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主として管理者が行っております。ご家族様、医療機関と共に早期治癒の為の情報交換に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様やご家族様のご意向に沿い、協力医や主治医の協力の下に進めております。重度化や終末期に向けたケアについて学び、職員間で協議しております。チームケアとして全スタッフで方針や方法の共有に努めております。	入居時に本人、家族の意向を聞き、出来る限り希望に添える支援を心掛けている。今年に入ってから看取った経験もあり、終末期ケアに前向きに取り組んでいる。	利用者の高齢化に伴い、重度化や終末期ケアが増える事が見込まれる。職員の対応力を付けるための、研修の実施と、更なる意識付けのために、マニュアルや終末期の対応指針の再確認をする事を望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を整えております。実践力としては、不安な面も内在している為、定期的な訓練や初期対応の方法を学ぶ機会を設ける様に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時等の対応については概ね周知徹底出来ております。自治会の協力を得て、施設訓練と合同で防災訓練を行っております。家主や自治会を通じて日頃より地域への協力依頼を進めております。また、物品の充実も少しずつ行っております。	地域の防災訓練には、職員だけでなく、車椅子の利用者数名と共に参加している。食料品や毛布などの備蓄もあり、庭に設置された備蓄倉庫には、発電機も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いは、親しみ易い感じながらも失礼の無い様に配慮する様に日々意識を持って取り組んでおります。	排泄時は必ず扉を閉める、おむつ交換時は、居室入口の小窓を曇りガラスに閉め直すなど、プライバシーへの配慮を心掛け、利用者の尊厳を損ねないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の考え、想いや表情に耳を傾けております。お声掛けには細心の注意を払い、言葉だけでなく表情からも想いを察する事が出来る様に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、個人のお気持ちや生活ペースを尊重し、出来る限りお気持ちに寄り添う様、職員本位の支援にならない様に心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の自己選択を尊重しております。整容にも配慮し、利用者様に沿った支援を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや食べ易い形態を考慮して食事の提供を行っております。畑での自給自足を楽しみにしております。準備や片付けを利用者様と職員とでは出来る時と出来ない時がございます。	食事係が献立を考え、職員が調理している。ホームの畑で採れた旬の野菜が並ぶ日も多い。誕生日には好きなメニュー、クリスマスには手作りケーキなど、楽しめる工夫もしている。	食事は食欲を満たすだけでなく、楽しい時間ではなくてはならない。また状態を把握したり思いを知る絶好の機会でもある。食事の意義を再確認し、職員も同じ食卓を囲む事が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養バランスを考慮しながら作成しておりますが、更に熟慮を重ねていく必要があります。食事量に関しましては、個人様に合わせて提供しております。水分摂取量に関しても管理しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に利用者様の口腔内の状況に応じたケアを実施しております。義歯をお使いの利用者様は、夜間お預かりをし、洗浄剤にて洗浄しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	特別な状況を除き、トイレでの排泄を基本としております。排泄チェック表に於いて利用者様毎の排泄パターンを把握する様に努力をしております。	一人ひとりに合わせた個別の時間誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。日中のおむつ使用は1名のみである。トイレのドアは、色を付けてわかりやすくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品の摂取、繊維質の物を利用者様個々のご状態を考慮しながら摂取して頂いており便秘の改善に努めております。運動により、レクリエーションやマッサージを取り入れ運動の機会を増やして参りたいと考えております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が各日であり、利用者様が望む様な入浴支援には至っておりません。ご希望に沿える入浴体制の考案が必要であると感じております。	基本は1日おきの入浴であるが、2ユニットの利点を生かし、本人の意向に沿った支援も可能である。入浴拒否の利用者に対しては、誘い方を工夫し誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活時間を出来る限り考慮し、支援を行っております。清潔な寝具を整える事や室温調節等を行い、快適な環境を提供出来る様には配慮させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬情報の理解に努めております。また、看護職員が不在での服薬管理下である為、利用者様の現状を充分配慮させて頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の馴染みの生活の把握に努めております。日常生活での支援に比重を置き、それとは別の支援方法として外出や買い物への支援を行い、張合いのある生活を心掛けております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能な利用者様の外出は自由ではありませんが、現状ではお独りで外出が可能な利用者様はおりません。スタッフで考慮し外出を共にし、楽しく過ごせる支援を行っておりますが全てが可能な場合ばかりではございません。	近所のスーパーに買い物に行ったり、法人のバスを借りて、花見や新東名にドライブに出かけたりと、外出の機会が増えるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出等に出掛けた時にお小遣いを持って頂き、外出が出来る様に支援しております。利用者様の中で金銭の所持をされている方もおりますが、実際には、外出先での利用が基本となります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話をお繋げしたり、手紙を書いたり受渡し等の支援を行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各階に共用スペースをご用意しております。ゆったりとしたスペースで季節感を感じて頂いたり、清潔な環境を提供出来る様に留意しております。	2か所の中庭を中心にした建物内は、ほぼどこからでも太陽の恵みや、四季の変化を感じることができる作りである。随所に木を使用し、温かみのある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階に共用スペースがあり、利用者様がどこでも居心地が良いと思える環境作りを行い、提供しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みの物や利用し易い物を置いて頂いております。基本的にはご個人様に依存しております。その中で、利用者様の好みを優先し、安全に配慮しながら居心地が良く過ごせる工夫をしております。	使い慣れた筆筒や調度品、仏壇などが、家族の写真やお気に入りの品々と共に配置されており、その人らしく落ち着いた空間となっている。間取りは和室、洋室、和洋室があり、画一的でない居室設計である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮した環境作りをしております。扉の色でトイレの場所を解り易くしたり、一定の場所に於いて日常作業を行う事で自立への工夫をしております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200852		
法人名	株式会社 ライフサポート		
事業所名	ライフサポート鎌田	ユニット名	Bユニット
所在地	静岡県静岡市駿河区鎌田121番1号		
自己評価作成日	平成24年10月4日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2274200852-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成24年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様、おひとりおひとりを尊重し、利用者様が望まれる事を大切にしております。入居者様、ご家族様、スタッフをひとつの家族と考えて生活できる様な環境と提供しております。</p> <p>自家栽培のお野菜を皆様で美味しく召し上がって頂いております。</p> <p>職員構成は30代の管理者を中心に20代から70代までと幅広い年代で、その場面応用の利いた対応が出来るのも当ホームの自慢が出来る所であると感じております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ずっとあなたらしく ずっと快適な毎日を 安心と安らぎを創る」を理念として運営しておりますが、理念のある程度の共有は出来ていると言えますが、明確な実践状況を認識するまでには至っておりません。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入、家主、自治会、ボランティア等との連携に努めております。地域のお祭り、防災訓練等に参加等と地域との関わりを深める様に努めております。具体的な様子については運営推進会議において報告をさせて頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に於いて、認知症の方へのご理解や具体的な実践を報告させて頂いておりますが、限定された方々にしか浸透しておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の開催です。会議には、自治会副会長、地域包括支援センター、家族会、施設職員(管理者・ユニットリーダー)で構成しております。日常生活、行事、アクティビティ、防災、地域交流、事故の発生状況等を報告させて頂き、ご意見を頂く場としております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当窓口には、実践・並びに変更事項の報告を行っております。不明な点に関しましては、その都度において連絡をする様にしております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はありません。管理者並びに全スタッフは、身体拘束についての理解に研鑽し、命を守るケアを実践しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を学ぶ機会を設け、全スタッフが虐待に関しての注意をお互いに払って人権や生命の尊さを守るケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全てのスタッフが権利擁護の知識があるとは言えませんが、制度を学べる機会を設けていきたいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり、契約の締結を行っております。入居前後に於いて、利用者様やご家族様等にご説明をさせて頂き、不安な事柄や不明な点は早期に解決が出来る様に心掛けております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、電話、来訪時等にお話をして下る環境を意識しております。意見や苦情は会議等で報告、話し合いを行い、直ちに運営に反映する様に心掛けております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の職員会議、定期的なカンファレンス、必要があればその都度に話し合いの機会を設け、スタッフの意見や提案を運営に反映出来る様に努力しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に応じた公正な給与・賞与支給に務めております。業界の全体的な環境は依然として厳しいですが、その様な中でもスタッフの向上心を頼りに運営を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの資質や力量を把握に努めております。また、外部研修の受講機会が少ないので、機会を設けたいと考えております。また、日頃の内部研修やOJTを大切にしていきたいと考えております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内部に於いての人事異動や地域包括ケア会議等への参加を積極的に行い、同業者との交流を行っております。防災上や資質の向上の為に機会を増やしたいと考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様並びにご家族様等と管理者、計画作成担当者が面談、ご要望等を伺い、スタッフはご本人様からお話をお伺いしたりと一緒に過ごす中で、良好な関係が築ける様に心掛けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者並びに全スタッフが初期の段階でご家族様とお話を伺い良好な関係が築けるべく、努力しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の利用者様・ご家族様の現況を見極めて、必要であろうサービスを全スタッフにて検討を行い、早期の対応に心掛けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々人のご状態や性格、持ちうる能力等を把握する様に努めております。日常生活上での利用者様の役割を尊重し、押し付けてしまわぬ様に努力しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会に来所されやすい雰囲気作りに配慮しております。利用者さまとご家族様の関係を大切にしながら利用者様自身が快適な生活を送れる様に支援しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人様と利用者様の馴染みの関係や物品を大切にしております。ご面会は歓迎しております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の独自の生活習慣やお気持ちを尊重し、日常生活やアクティビティ等を行いながら孤立される事が無い様に利用者様同士の良好な関係作りに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、ご相談やご報告があれば、その都度に対応させて頂き、支援できる範囲内に於いて協力させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個人の行動、言葉、表情を共同生活上に於いてご意向を把握しております。また、ご家族様から頂いた情報に関しても重要視し、スタッフ間で共有し、活かしております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴に関して、ご家族様にお聞きをしたり、今までの生活でお使いになられていた物品をお持ち頂く等し、スタッフ間の共有に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の有する能力を見極めた上で、出来る事や出来ない事を判断し、職員間で情報を共有して、過剰な介助・押付けの介護にならない様にご自身で出来る事はお願いしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフ、ご本人様、ご家族様、周辺環境を踏まえ検討を重ねながらご本人様に適合した介護計画を作成出来る様に努めていきたいと考えております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたケア実践は現状では、及第点とは言えませんが、日々のご様子や気づきをケース記録に反映させスタッフ間の情報共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様のご要望に出来る限り対応させて頂いております。また、管理者を中心とし、スタッフ間の連絡を密に行い、応対に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や活用が現状では、充分に行えておりません。ホームの存在、行動傷害、災害時の協力に深いご理解を頂く必要性がより顕在化しなければならないと考えておりますが、周囲から支援されている事は計り知れない物があります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様やご家族様等のご希望に沿った受診支援を行っております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は不在の為、協力医や主治医と24時間連絡を取れる体制となっております。状態変化が診られた時には、速やかに電話連絡を行い指示を仰いでおります。また、法人内に看護職員がいる事から必要に応じて協力を仰いでおります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主として管理者が行っております。ご家族様、医療機関と共に早期治癒の為の情報交換に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様やご家族様のご意向に沿い、協力医や主治医の協力の下に進めております。重度化や終末期に向けたケアについて学び、職員間で協議をしております。チームケアとして全スタッフで方針や方法の共有に努めております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を整えております。実践力としては、不安な面も内在している為、定期的な訓練や初期対応の方法を学ぶ機会を設ける様に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時等の対応については概ね周知徹底出来ております。自治会の協力を得て、施設訓練と合同で防災訓練を行っております。家主や自治会を通じて日頃より地域への協力依頼を進めております。また、物品の充実も少しずつ行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いは、親しみ易い感じながらも失礼の無い様に配慮する様に日々意識を持って取り組んでおります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の考え、想いや表情に耳を傾けております。お声掛けには細心の注意を払い、言葉だけでなく表情からも想いを察する事が出来る様に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、個人のお気持ちや生活ペースを尊重し、出来る限りお気持ちに寄り添う様、職員本位の支援にならない様に心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の自己選択を尊重しております。整容にも配慮し、利用者様に沿った支援を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや食べ易い形態を考慮して食事の提供を行っております。畑での自給自足を楽しみにしております。準備や片付けを利用者様と職員とでは出来る時と出来ない時がございます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養バランスを考慮しながら作成しておりますが、更に熟慮を重ねていく必要があります。食事量に関しましては、個々人様に合わせて提供しております。水分摂取量に関しても管理しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に利用者様の口腔内の状況に応じたケアを実施しております。義歯をお使いの利用者様は、夜間お預かりをし、洗浄剤にて洗浄しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	特別な状況を除き、トイレでの排泄を基本としております。排泄チェック表に於いて利用者様毎の排泄パターンを把握する様に努力をしております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品の摂取、繊維質の物を利用者様個々のご状態を考慮しながら摂取して頂いており便秘の改善に努めております。運動により、レクリエーションやマッサージを取り入れ運動の機会を増やして参りたいと考えております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が各日であり、利用者様が望む様な入浴支援には至っておりません。ご希望に沿える入浴体制の考案が必要であると感じております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活時間を出来る限り考慮し、支援を行っております。清潔な寝具を整える事や室温調節等を行い、快適な環境を提供出来る様には配慮させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬情報の理解に努めております。また、看護職員が不在での服薬管理下である為、利用者様の現状を充分配慮させて頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の馴染みの生活の把握に努めております。日常生活での支援に比重を置き、それとは別の支援方法として外出や買い物への支援を行い、張合いのある生活を心掛けております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能な利用者様の外出は自由ではありませんが、現状ではお独りで外出が可能な利用者様はおりません。スタッフで考慮し外出を共に行い、楽しく過ごせる支援を行っておりますが全てが可能な場合ばかりではございません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出等に出掛けた時にお小遣いを持って頂き、外出が出来る様に支援しております。利用者様の中で金銭の所持をされている方もおりますが、実際には、外出先での利用が基本となります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話をお繋げしたり、手紙を書いたり受渡し等の支援を行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各階に共用スペースをご用意しております。ゆったりとしたスペースで季節感を感じて頂いたり、清潔な環境を提供出来る様に留意しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階に共用スペースがあり、利用者様がどこでも居心地が良いと思える環境作りを行い、提供しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みの物や利用し易い物を置いて頂いております。基本的にはご個人様に依存しております。その中で、利用者様の好みを優先し、安全に配慮しながら居心地が良く過ごせる工夫をしております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮した環境作りをしております。扉の色でトイレの場所を解り易くしたり、一定の場所に於いて日常作業を行う事で自立への工夫をしております。		